



ニュースレター



NPO 法人大阪環境カウンセラー協会 第 23 号

Apr. 2007

Osaka Environmental Counselors Association, Nonprofit Organization

19年度のスタートにあたりご挨拶

理事長 高井 茂

今年の桜はいつもの年に比べて長持ちいたしました。気候が変動したので、桜自体咲くタイミングを迷ったのかもしれませんが、いつもの「一斉に」との感じが少なかったように思います。

18年度も無事に終了し、19年度の事業が始まっています。

平成10年11月に大阪環境カウンセラー協会(OECA)がスタートして10年目に当たります。この節目の年の活動は極めて大切だと思っています。ここで踏ん張るか、そうでないかで、行く先が大きく変わってまいります。環境に対する世間の関心は年々高まってきていて、幸いわが協会も少しずつですが、活動の範囲が広がりを見せています。しかし、わが協会の活動を見る目は次第に大人を見る目に変わってきています。

会員の活動で、非常識・不見識・無責任・傲慢な行動があれば今まで培ってきた信頼が地に落ちてしまいます。

気分を引き締めて、誠意を持って、クレバーに行動するように心がけましょう。我々は年々加齢しています。年相応に楽しくNPO活動を致しましょう。

19年度に新しく、なにわエコ会議を通じて新たな事業が入る予定になっていて、これにも数名の会員が参加することになることを書き添えます。

新入会の皆様、ご入会ありがとうございます。早速ですが、協会のいろいろな事業に参加されることをお願いいたしますと共に、6月に行われるOECA総会やセミナーにご参加くださいますようお願いいたします。



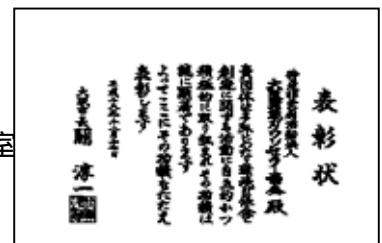
(大阪市環境表彰 表彰式にて)

「大阪市環境表彰」受賞!

平成18年12月17日(日)大阪環境カウンセラー協会(OECA)は大阪市から環境保全行動に関し顕著な功績のあった個人、団体及び事業者を表彰する「平成18年度 大阪市環境表彰」に於いて団体の部で“環境カウンセラーの知識・経験を生かした、地球温暖化実験教室をはじめとする環境啓発活動”が評価され、同賞を受賞しました。

当日は、なにわエコ会議が主催する「地球温暖化防止パートナーシップフェア」が大阪市立北区民センターでおこなわれ、高校生を含む若い人達の環境活動の紹介や講演があり、800名を超える参加者が見守るなかで、「平成18年度 大阪市環境表彰 表彰式」が行われました。受賞者の活動紹介の映像では、小中学校での実験教室、各種セミナーや出前教室の開催など多方面の活動が紹介され我々の活動が大きく取り上げられ、広く市民や事業者の方々にアピールすることができました。

(事務局 塚本勝)



エコアクション21 地域事務局大阪の活動報告

現在、エコアクション21 中央事務局（IGES）で認定されている地域事務局は、29 都府県 39 団体となり、認証・登録事業者数は 1,445 件（3 月末）になります。

その中、エコアクション21 地域事務局大阪で取り扱った認証・登録事業者数は 128 件になっています。

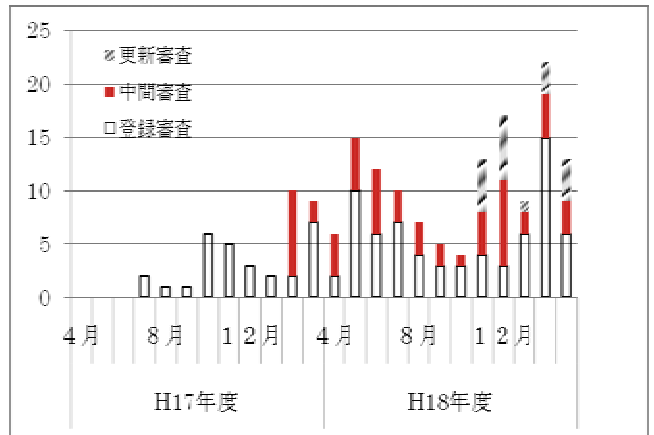
地域事務局大阪の活動状況は、判定委員会・第 22 回が 3 月 26 日に開催され、また、運営委員会は計 3 回開催された。3 月末現在、地域事務局大阪で受付した事業者数は、新規登録審査、中間審査、及び更新審査を含め 196 件になります。その内訳は新規登録審査済事業者が 98 件、中間審査済事業者が 55 件、更新審査済事業者が 19 件、審査継続中事業者が 24 件です。

地域事務局大阪で実施した、H18 年度「自治体イニシヤティブ・プログラム」は大阪市、堺市、吹田市、富田林市・河南町合同、羽曳野市の 5 自治体の申込みがあり、39 件の事業者が終了、及び「グリーン化プログラム」として、2 企業の参加があり 18 件の事業者が終了し、これらの事業者は 4 月から認証・登録の申請が予定されています。

エコアクション21 制度の普及促進を図る活動として、大阪環境カウンセラー協会、EA21 普及委員会と共同で、大阪会場の「EA21 普及セミナー」はじめとして、吹田、高槻、枚方、堺、富田林、羽曳野の会場など、大阪府下・各地計 13 箇所 EA21 説明会、普及セミナーを実施して延べ 294 事業者の参加があった。

その他 EA21 に関して「関西化学工業協会」、「土壌汚染対策コンソシアム」、「徳島県那賀川町商工会」で、説明会を実施。また、「EA21 普及定例講座」や「新 EA21 セミナー（内部指導員養成コース）」なども実施し、多くの事業者をはじめ、各関係機関に普及促進を展開した。

6 月 2 日（土）には、EA21 認証登録事業者の皆さんを「地球温暖化防止活動推進セミナー 2007」（「地球温暖化対策の施策・支援策」等）にご招待予定であるが、事業活動、地球温暖化防止活動等に役立ことを期待しています。
（エコアクション21 地域事務局大阪 北 潤明）



なにわエコ会議事務局 活動報告

前号でもお知らせ致しましたが、大阪環境カウンセラー協会、事務局を担当していた「なにわエコ会議」の事務作業が、平成 18 年 10 月をもって終了しました。この事務局は大阪市鶴見区にある「大阪市立環境学習センター（生き生き地球館）」（写真）内に移転しました。なにわエコ会議の事務局を O E C A が引き受けた 2 年前は十分な引継ぎもない状態で、今後どうなるのかと心配しましたが事務局担当者の日常の努力もあって、順調に「なにわエコ会議」の活動が進むようになりました。

今後は事務の引継ぎなど 6 月の定時総会までの残務整理が残りますが、一方で O E C A もなにわエコ会議会員であり、また O E C A 宇田吉明副理事長は、「なにわエコ会議」の「環境にやさしい企業部会」の部会長および会報誌「エコウエーブ」の編集委員長でもありますので、今後とも、より密接な協働が期待されます。会員の皆様の今まで同様のご理解とご協力をお願いします。尚、『生き生き地球館』は花一杯の花博記念公園鶴見緑地の一角にあり、春夏秋冬、心和ませる環境の中に事務局がございまして、鶴見緑地にお出かけの際は、ぜひ事務局にお寄りください。（なにわエコ会議事務局塚本 勝）



環境教育部会 活動報告（実験教室）

平成 18 年度の実験教室は、(財)地球環境センター、大阪市、松下電器産業(株)等からの助成により O E C A 会員の皆様のご協力のもと、大阪市を中心として約 1 0 0 0 名の参加者に実験教室を実施することができました。中でも扇町高校の実験教室には J I C A の海外研修生も参加しました。今年度も(財)地球環境センターからの受託事業を実施する予定ですが、19 年度は高等学校を対象として実施することになりました。

引き続き O E C A 会員の皆様のご協力の程お願い致します。

H . 18 年度 (財)地球環境センター受託事業 実験教室 実施

NO	実施年月	実施先	参加人数
1	H18/06/18	エコ緑日(生き生き地球館)	50
2	H18/10/10	大阪市立扇町総合高校 環境科学系列	35
3	H18/10/26	大阪市立鶴町小学校 4, 5, 6、学年	21
4	H18/10/27	大阪市立築港小学校 6 学年	49
5	H18/11/7	大阪市立天下茶屋小学校 4 学年	56
6	H18/12/1	大阪市立東都島小学校 6 学年	81
7	H18/12/4	大阪市立鶴見南小学校 6 学年	81
8	H18/12/6	大阪市立湯里小学校 5 学年	58
9	H19/01/16	大阪市立佃南小学校 5, 6、学年	96
10	H19/01/23	大阪市立春日出小学校 5 学年	69
11	H19/02/14	大阪市立阿倍野小学校 6 学年	58
		合計	654



大阪市立扇町総合高校



大阪市立天下茶屋小学校

(環境教育部会 部門長 阪野 喬)

環境教育部会 活動報告（イベント・セミナー）

アースデー:(4月22日は“地球の日”)

4月22日(日)扇町公園で、大阪市、なにわエコ会議、大阪環境カウンセラー協会主催で開催された。当日は、生憎の雨天であったが、午後から小降りになり客足が増えた。環境問題の大切さを市民にイベントを通してアピールし、それに賛同して協力していただくことを呼びかけた。(猪尾 英雄)



環境教育マッチングフェア

なにわエコ会議主催の環境教育マッチングフェアは2月25日に浪速区民センターで開催された。大阪環境カウンセラー協会は、温暖化実験教室及び薬師寺さんのマイバックの2つのブースを出展した。(森田 毅)



とよなか市民環境展:

12月1~2日(土)豊中市民会館で、“とよなか市民環境展”が開催され、O E C A から、小林、長澤、猪尾が参加した。

地球温暖化実験機材 & 手回し発電のみの展示だけでは一般市民の関心度は低く、人集めに苦労した。やはり、これらイベントには人が集まる“出し物”が、ぜひとも必要と認識した。次回は、この経験を踏まえ、その“出し物”と従来の地球温暖化の機材を1セットにして、臨みたい。

(猪尾 英雄)



= セミナー“地球温暖化対策とCDMについて考える” =



今回、地球温暖化対策とCDM（クリーン開発メカニズム）の仕組み・現状をやさしく解説するセミナーを平成18年11月9日大阪産業創造館で開催した。このセミナーはOECAと、なにわエコ会議、大阪CDMネットワーク、大阪環境ネットが共催し、環境省近畿地方環境事務所、経済産業省、近畿経済産業局、大阪府、大阪市、地球環境センター、大阪市都市型産業振興等多くのご支援を頂いた。

講師の先生方も、現在、一線で活躍されている方ばかりで、会場も関係者には良く知られている場所であった事、など等で、定員100名を超える参加申し込みがあった。また、参加者のアンケートでは、「参加者のほとんどが中高年であること。次世代をになう、若い方々がもっと参加してほしい」等など、たくさんのご意見を頂き、今後、これらのご意見を参考にしたい。(吉村/中島)

環境教育部会 活動報告（自然環境部門）

障害を持つ方の為の自然観察会

18年11月5日羽曳野市誉田八幡宮（こんだはちまんぐう）にて「障害を持つ方の為の自然観察会」を実施しました。誉田八幡宮は市役所から近く応神天皇陵南東端部にあり、歴史的にも有名な神社です。境内には府下でも珍しい「ナギ」の木が植えられていて、ベンケイナカセの別名が有る様に葉を引き千切ろうとしても中々切れません。参加者の皆さんも真顔で試している様子が面白かったです。ちなみにナギの葉は一見広葉樹の様ですが実はマキ科の針葉樹です。

19年の4月に再度上記の方々対象の観察会を市域内山間部で行なおうと計画して居たのですが、残念ながら実現に至りませんでした。今後も大阪府下での同様な観察会実現に向けて、活動を進めて行く所存です。また、19年度初夏には淀川汽水域での水棲生物の内部観察会も計画中（詳細後日お知らせ）ですので、ご参加宜しくお願致します。

カエルツボカビ症：カエルツボカビ症の発生が確認されその拡散が懸念されています。下表をご参考に拡散防止にご協力をお願いします。



海外から持ち込まれた「ツボカビ症」によって、日本在来種のカエルが絶滅の危機に瀕する可能性が発生しています！ 今後皆様のご協力したいで水際防疫作戦が成功するか否かが決まります。

特に外国産のカエルなどの両生類や魚類、その他水棲生物を飼育している方は下記の事項に付いて充分ご注意下さい。

- 水槽の廃棄水は必ず殺菌処理して下さい。直接下水に流さない様に。
- カエルに病変が認められたら獣医師に相談して下さい。
- 死亡したカエルは絶対に野外に埋めたり排水路に投棄したりしてはいけません。焼却するか、獣医師に相談し研究機関に冷蔵郵送して下さい。
- 屋外に大量に変死したカエルを発見した場合は絶対に触らず、地域の行政(市役所)や保険所などに連絡して下さい。
- 人には感染しませんし、飼育放棄する必要も有りません。

カエルツボカビ症とは

1998年に発見された後世界に蔓延し、両生類特にカエルでは90%以上の致死率です。現在世界で感染が無いのはアジアの一部だけで、既に全世界の両生類5,743種の内120種が絶滅し、今後更に1,856種、実に全両生類の32%が絶滅の危機に瀕する事が危惧されています。

診断的行動テスト

方法	健康なカエル	罹患したカエル
優しく指で触る	目をパチパチさせる	目をパチパチしない
ひっくり返す	自力で反転する	そのまま動かない
口を優しく握る	前足を使い逃げようとする	反応が無い



タコガエル(アカガエル科)Rana tagoi tagoi 日本固有種。伏流水のある山間地に住みワンワンと鳴くので有名。画：福田 裕

(自然環境部門 福田 裕)

当たり前の普及啓発（どないしてほしいねん！）

最近、普及啓発セミナーというのが各所で行われています。環境については「ゴミの問題」「地球温暖化」などがテレビでも宣伝され、今更、普及啓発しなくても一般に知られるようになってきました。

しかし、「普及啓発って、これでええのか？」という疑問が最近のなかをグズグズ回っています

普及啓発の目的は、まず、第一に「知ってもらう」から始まりますが、最終的には普及啓発された側が「活動」してもらわなければ環境は改善されず「単なる環境のお話」に終わってしまいます

それでは、何を普及啓発すればいいのか。それは「環境リスクとリスクを取り除くための活動方法」であると実感するようになりました。「そんなこと、当たり前やないか」と仰る方も多いと思いますが、環境リスクを伝えるセミナーは多くても、リスクを取り除くための活動方法、即ち「どないしてほしいねん！」をセットで伝えるセミナーは少ないと思います。

要するに、本当の意味の普及啓発ができていないのです。

それでは、リスクを取り除くための活動方法「どないしてほしいねん！」を普及啓発するためにはどうしたら良いか。

これは、非常に困難です。なぜか。環境リスクは地域により空間的、時間的に異なり、このようなリスクを取り除くための活動方法は一般論では啓発できないからです。例えば、その地域の今あるリスクを回避するのか、将来起こるリスクを回避するのか、その地域において大きいリスクなのか、小さいリスクなのか、その地域の能力で回避できるのか、できないのか、など地域の特性が鍵となります。このようなことを考慮して、地域の特性に応じた環境リスクをわかりやすく説明し、地域の特性に応じた活動を実行してもらうためには「地域と密着した普及啓発」が効果的且つ必要です。これも環境白書に書かれているとおり、当たり前の話です。

次に、普及啓発セミナーでのイメージですが、セミナー講師は「教える」のスタンスで演壇に立たれている方が多く見受けられます。講師はそれなりの知見・経験をお持ちの方で、その道ではプロと呼ばれる方です。しかし、特定の技術、一般論ではプロであっても、その地域の特性に応じた技術、方法論などに関してはアマチュアです。先に言いましたように、地域のリスクを回避するには、地域独自の方法が不可欠で「聞いている側」はいくら一般論を言われても活動できないのです。

ですから、セミナー講師は「教える」のスタンスではなく「どないしてほしいねん」を実行できる程度にはっきり伝えて「一緒に考えましょう」というスタンスでないと普及啓発効果はありません。そのためには、啓発する側とされる側とのコミュニケーションが重要となってきます。普及啓発セミナーではこのようなコミュニケーションをとる企画が望まれます。

普及啓発について、私はいろいろな経験を積んできましたが、今思うことは、当たり前のことばかりです。本当の普及啓発を実行するには、自分から積極的に伝えて、まず、自分の知っていることを「わかりやすく伝える」そして、「地域（セミナー参加者）と一緒に考える」という気持ちとスタンスが重要です。これも、当たり前のことでしょう。大阪環境カウンセラー協会（OECA）は専門家集団であり、大阪の地域性を考慮した普及啓発活動を継続的に実施し、大阪の環境改善に貢献できるよう各会員皆様の協力と努力に期待致します。これも、当たり前。



OECA との協働による NPO 土壌汚染対策コンソーシアム (CSOCC) の普及啓発セミナー



市内魚類生息状況調査の説明を受ける隊員
と、小学生参加



廃棄物 3R 推進活動報告

平成18年度の活動結果：OECAの新しい活動として、限られた資源の有効活用の促進を推進する「廃棄物 3R 推進」事業を、市民部門（女性）4名、事業者部門4名の部会員でスタートしました。

当初は、事業に関するアンケート、企業の廃棄物対策の調査を行い、事業の方向性を模索したが、なかなか方向性が定まらず試行錯誤しました。

事業者部門では、廃棄物の再資源化を積極的に推進されている株式会社コウトクさんの再資源化施設で見学・研修会の実施。

市民部門では、レジ袋有料化に伴い、雨傘からの買い物袋作りの実演をワンワールド・ENEX等に展示して、大きな反響がありました。

これらの状況を踏まえ、19年度は、焦点を絞った「事業の計画書」を作成し、活動を支えていただく部会員を再募集して、循環型社会形成の推進を担って行きたいと考えています。

(3R 推進部会担当執行理事 落合修)

ワンワールド・フェスティバル、ENEX07の報告など

これまでイベントや店頭、講習会などいろんな場所で、環境のことを呼びかけて早10年になります。当時は一般的に関心が薄く、環境の話に足を止め、耳を傾けてくれる人も多くありませんでしたが、近年、新聞、テレビなどで環境問題を取り上げるようになり、以前より興味を持つ人が多くなったと実感しています。

ワンワールド・フェスティバル(2月) ENEX07で、古傘を利用した買い物袋とリュックの展示と製作実演を試みて、このことを感じました。

多種類のリュックと手提げを展示して、その横で作り方を教える方法は、イベントでは初めての経験でした。

イベントを通して感じたことは、お客様多人数より、少人数のほうがしっかり教えることができると思いました。テーブルの前で説明を聞く人の眼差しはどの人も真剣でした。遠くは長崎、京都、神戸から来ておられ、この人たちがきっと、広めてくれると思いました。

環境問題に興味を持ちながらも「何から始めたらいいのだろう」と迷われている方が多いのではないのでしょうか。私はそういう人達に自然環境の大切さや3Rのことを楽しく、明るく伝え広めて行きたいと思っています。

人を集め、興味を持たせるには、楽しく、明るい雰囲気を作ることが大切だと実感しています。趣味の発明、工夫と洋裁の技術を生かして、試作品作りに日々奮闘しています。

(薬師寺 秀子)



事務局からのお知らせ

平成19年度から全省庁および大阪府下の自治体に関する一般競争入札参加資格の申請を行い、下記のとおり登録されました。

1. 全省庁統一資格
 - イ) 対象：役務の提供等(調査・研究・その他)
 - ロ) 入札参加可能金額：300万円
 - ハ) 期間：平成19.20, 21年
2. 地方自治体
 - イ) 対象自治体：茨木市、東大阪市、
 - ロ) 対象：茨木市；人材派遣、東大阪市、東大阪市水道局；研修
 - ハ) 期間：平成19.20, 年

342名登録されたことで、登録者は4,000名を超えているものと推定される。OECAも冒頭の理事長挨拶のように本年度は10年目にあたり、会員の増加と共にその活動範囲も広がりいろんな分野で活動しているが、理事長のいわれる「気分を引き締めて、誠意を持って、クレバーに行動するように心がけましょう。」に留意して活動したい。6月2日の総会、セミナーの後で、交流会を予定しています、より多くの会員が集い、意見を交換するなど有意義な時間が持てるように企画致しております。ぜひ、ご参加ください。また、新年度の会費を徴収中です。よろしく願います。(中島記)

発行者：NPO 法人 大阪環境カウンセラー協会
住 所：〒552-0021 大阪市港区築港2-8-24
piaNPO 411号

発行人：高井 茂
編 集：中島延雄



TEL:06-6599-0600 FAX:06-6599-0607 E-MAIL: info@osaka-eca.org http://www.osaka-eca.org/

編集後記：18年度も新たに環境カウンセラーが、